

第1回授業研究会

7月14日（木）に今年度第1回目となる「授業研究会」を開催しました。午前は、「朝の活動・朝の会」の提示授業を行いました。午後からは、岩城会館にて、授業研究会と秋田県立秋田きらり支援学校教諭（兼）教育専門監の二階堂悟先生による講話を行いました。

青森県立浪岡養護学校の先生方をはじめ、県内特別支援学校よりたくさんの先生方をお迎えして研究会を開催することができました。御参加いただきありがとうございました。

提示授業① 高等部2・3年 自立活動（朝の活動・朝の会）

「季節」をテーマにした学習内容を設定し、一日の始まりと、一緒に学習する友達に対する意識が高められるようにしました。友達を近くに感じられるよう配置を工夫し、夏の歌や夏の風物詩をモチーフにした教材を用いたことで、生徒は楽しい雰囲気を感じながら表情や発声で自分の気持ちを表したり、友達に注目して関わったりする様子が見られました。



授業提示② 小学部1年・中学部3年・高等部1年 自立活動（朝の会・朝の活動）

朝の体操では、教師と1対1でじっくり取り組むことで、生徒は働き掛けを受け入れて、楽しさや心地良さなどの気持ちを表情や身体の動きで表す様子が見られました。朝の会では、係活動や呼名など注目される場面があったことで、児童生徒は友達を意識して視線を向けたり、自発的な身体の動きや発声で返事をしたりして、友達同士関わり合う姿も見られました。



授業研究会

協議題「人と関わりを広げる授業づくりについて」

2つのグループに分かれて協議を行い、「生徒同士の関わりが広がる授業展開」「個々の児童生徒が自分の得意なことや役割を果たしたり、自分の気持ちを表現したりするような授業展開」について活発な意見交換が行われました。

【協議会より（一部抜粋）】

- 生徒が友達に注目し、関わりを広げていけるように、教材・教具の使い方や授業展開の仕方を工夫する。
- 生徒がより自分の気持ちを表すことができるように、主体的に活躍できる場面の設定をする。
- 児童生徒が意欲や自信をもって活動できるように、役割を与えて活躍できる場を設定していく。
- 児童生徒が楽しい気持ちを共有し合えるような関わる場面の設定や、教材・教具の使い方を工夫する。

講 話

講師の二階堂悟先生より、「障害の重い子どものコミュニケーションと感覚の活用について」という講話題でお話をいただきました。コミュニケーションの初期発達の成り立ちや感覚情報の大切な役割について具体的に紹介していただきました。これからの指導にぜひ生かしてみたい内容であり、大変有意義な講話となりました。



【講話より（一部抜粋）】

- 感覚には五感以外にも無意識のうちに活動している「固有感覚」や「前庭感覚」といった感覚もあり、上手く生きていくうえでとても大切な役割を果たしている。
- コミュニケーションの基になる3つの認知能力（「注意する力」「聞く力」「見る力」）を整理することで、子どもを理解する手がかりとなる。
- 授業づくりを考えるうえで、ICFの理念やキャリア教育の視点から「活動」と「参加」だけでなく、「役割」を担うことと「責任」を果たすことも盛り込むとよいのではないか。